

シェイクスピア研究第一人者

元本学教授 小田島雄志先生

最後の「シェイクスピア論」惜しまれて

シェイクスピア研究の第一人者で、元本学教授であ



そのお人柄と洒脱な授業が愛された小田島先生

も名誉館長として、後進を育てていらつしやいます。坪内逍遙に続いてシェイクスピアの全戯曲を翻訳され、人を対象とした「小田島雄志賞」が創設され、若い翻訳家の育成を担っています。最後の授業では、小田島先生が翻訳された「アントニーとクレオパトラ」(白水Uブックス)を用い、壮大なスケールの愛について講義されました。会場のスカイホールには、文京での最初の教え子も出席し、最後に花束を贈呈しました。受講者は、全員の手紙にサインをし、こやかに記念撮影に応じる小田島先生との別れを惜しまれました。

る小田島雄志先生が、6月12日、生涯学習センターで最後の「シェイクスピア論」を講義されました。

小田島先生は、本学で13年間にわたり教鞭を執られ、さらに生涯学習センター、東京芸術劇場第2代館長として、豊島区の演劇文化向上に尽力。現在も名誉館長として、後進を育てていらつしやいます。

1980年に芸術選奨文部大臣賞を受賞。1995年には紫綬褒章を受章され、2002年には文化功労者として表彰されました。その洒脱で駄洒落を含んだ楽しい講義は、本学の看板授業として多くの学生に愛されました。本学には、小田島先生のお名前を冠して、芸術・文化面でユニークな活動をした者に贈られる「小田島雄志賞」があり、学生たちの励みになっていきます。翻訳の世界でも、新人を対象とした「小田島雄志賞」が創設され、若い翻訳家の育成を担っています。最後の授業では、小田島先生が翻訳された「アントニーとクレオパトラ」(白水Uブックス)を用い、壮大なスケールの愛について講義されました。

その洒脱で駄洒落を含んだ楽しい講義は、本学の看板授業として多くの学生に愛されました。本学には、小田島先生のお名前を冠して、芸術・文化面でユニークな活動をした者に贈られる「小田島雄志賞」があり、学生たちの励みになっていきます。翻訳の世界でも、新人を対象とした「小田島雄志賞」が創設され、若い翻訳家の育成を担っています。最後の授業では、小田島先生が翻訳された「アントニーとクレオパトラ」(白水Uブックス)を用い、壮大なスケールの愛について講義されました。